

第10回 昭和村統合小中学校建設委員会 議事報告

令和6年7月31日 午後7時00分~午後8時30分

昭和村公民館 大会議室

1. 開 会

出席者 委 員 26名

事務局 4名

2. あいさつ 委員長 高橋幸一郎（村長）

第10回ということで、今後のことについてご審議をお願いします。

3. 議 事 進行：高橋委員長

（1）今後の進め方について

○ 協議事項 建設委員会のこれまでの判断と在り方について

《協議結果》

村長判断により次の事項が決定した

- （1）建設委員会を解散する
- （2）建設委員会によるこれまでの判断を白紙に戻す
- （3）新たに「昭和村の小中学校統合推進協議会（仮称）」を、教育委員会主導で設置し、委員長は教育長とする

（2） その他

○ 「昭和村の小中学校統合推進協議会（仮称）」の設置について

- （1）新たな協議会は村長の諮問機関ではない
- （2）委員の人選は教育委員会にて決定する
- （3）村長及び議会議員は委員にはならない
- （4）事務分掌（要綱等）
 - ① 小中一貫教育の推進について
 - ② 統合小中学校の設立にかかわる諸事項について
（学校種、教育内容、建設場所）
 - ③ 協議事項の周知及びその方法、村長・議会への報告について

○ 次回会議日程 未定（なるべく間を置かずに開催すること）

4. 閉 会

【別紙】

第10回 昭和村統合小中学校建設委員会 議事概要

議題（1）今後の進め方について

■事務局説明

今後の進め方について、新たに就任された高橋委員長から、新たな方向性についてご意見をよろしくお願いします。

■議事概要

委員長）ざっくばらんに皆様のご意見をお聞かせ願えたら。ご意見のある方はよろしくお願いします。

委員）委員長はどうお考えか。

委員長）皆様のご意見をお聞きしてからと考えている。皆さんのご意見をお聞かせ願えたら。順番でお願いします。

委員）前回の会議から時間が空いたので、村民の考えも変わっているかと思う。その辺を知りたい。保護者の間では特に大きな話題にはなっていない。統合して人数が増えたら、それはそれで子どもにとっては良い刺激になると思う。子どもたちにとってより良い方向を目指すことは、ぶれずに進めたい。

委員）最初のときから3年4年で場所を決めて、保育園の統合も少人数で決定するという、スタート・計画作りのところから違和感をもっていた。場所の決め方も委員の意見を出さずに決められたところが疑問。アンケート結果では4年以内に統合してほしいという意見はそれほどなかった。結論ありきの会議のやり方には違和感がある。森下地区に4世帯の子育て世代が転移してきた。新しい家が増えつつある状況で、そんなに急がなくても、人口を増やす、子どもを増やす政策をやってみて、それでも増えなければ統廃合を考えたほうがいい。しばらくこの会議は中止にして、子どもを増やす政策に注力してほしい。

委員）去年川額地区に5軒新しい家ができた。おそらく学校・コンビニ・駅などが近い立地が要因。子育て世代にとって学校の場所は大事。無理に統合するのはどうなのか。村内の子どもにとってはメリットがあるかもしれないが、各地区に学校があって、各学校の近くに転入希望者がいるのなら、各地区で子どもが増えていくことが、子どもたちにためになると思う。統合によってそういったメリットがなくなる可能性も議論してもよいのでは。子どもに最善の環境は何か考える時間をもっとあってもよいと思う。

委員）当初場所を決定したところ、周りから「なんで上にしたのか」と言われた。新しい学校を作る方向でいくのであれば、子どもが安心して健康的に通える学校であるべき。学校周辺の環境、調査もしっかりしたうえで、ゆっくり議論を重ねたうえで最終的な結論を出していったほうが良いのでは。今まで進め方が早すぎたというのは実感としてある。

委員）どこまで戻って進めるのかを決めないといけない。進めるにあたっては、どこまでさかのぼって決めるのか、急ぎすぎないで進めるのか、メンバーはどうするのかなどを先に決めてから進めた方がよいと思う。

委員）今後の進め方について、住民説明会を開いて、アンケートで意見を聞くなど節目で意見集約し、委員会で共有するのが大切。議題があがってもきちんと処理したうえで次に進まないで不満が出ると思う。

委員）統合の方向性が決まり集まった委員会なので、村長と教育長の示した方向性に沿う議論が必要。今後の進め方・指針は、村のことをよくわかっているところが示してほしい。一度決定したことについて、白紙にしたら納得いかない人もいる。これまでのことを踏まえて、落とし所をどうするか、いろんな方が納得感を持てる意見集約と開かれた議論が必要。もし、統合しないほうが良いとトップが思うのであればそれで致し方なしで、統合するのであれば、全員は無理でも一定程度が納得できる進め方を議論

していく必要がある。

委員）まず場所決めのところに校長が入っているのは疑問、どうなのか。生徒の安全・生命が一番大事。生徒を救急車で運ぶなどとなった場合、より病院に近いところがいい。子どものことを第一に考えて進めていただければありがたい。

委員）統合することを決定してこの委員会があるはずだが、10回も会議をしているのに進んでない。統合を進めるような方向で話を進めたい。すぐにでも統合してほしいという保護者の意見もある。大河原以外でもグランドのところでもいいという意見もある。反対の意見もあるが、「上でいいんじゃないか」という意見も聞いた。場所に問題があるのか、なんでこんなに話が進まないのか。1つ1つクリアにしていけないと進まない。統合の是非からではなく、少しでも統合に向けて進んでいけるような議論をしてほしい。

委員）各地区の判断材料、他の地区の話を聞くことが少ない。わからないのに、場所を決めようと言われても、『自分のところがいい』になってしまうので、そのあたりが足りなかった。もっと情報が欲しい。各地区の人口増の話があつたが難しいのでは。周りを維持する大人も必要。大人の手がたりないようなところに子どもを通わせたいか。

委員）小人数学校ではクラスは男女比の偏りがあり、女子1人しかいないクラスも。学習でも考えを深める学びはむずかしく、学習の格差を感じる。安全面では低学年の児童だけで帰るのは不安。集団登下校を行っており、低学年は高学年が終わるのを待って一斉下校している。高学年が卒業してしまうと、低学年だけで帰ることになってしまう地区もある。統合すればスクールバスになり安心。このままでは引っ越しを考える家庭もある。統合を白紙にするのであれば、要綱に定められていることなので建設委員会は解散する。

委員）この委員会は統合を前提とした委員会であるが、候補地の決定が早すぎた。もっと議論を深め、反対意見に対する丁寧な説明、理解が必要だった。今後は、意見をまとめられる強いリーダーシップを持った人が必要。

委員）在り方検討委員会を経ての建設委員会であるので、統合は当然と思って参加してきた。子どもの教育、子育ての環境が一番大切。教育の環境や病院へのアクセスなど、生活インフラの利便性を整えていくと必然的に人口が増えるが、すぐに効果は表れない。議論はもう少し丁寧に進めた方がよかった。今後子どもたちにとってよい環境になるように議論を進めたい。

委員）これは統合する方向でスタートした委員会。反省すべきは候補地が最適なのかの審議をする前に村民に公表されてしまったこと。メリット・デメリットの検討がされないうまま公表されてしまい、否定的な意見が多かった結果となってしまった。新しい方向性については、現地視察を経て建設候補地の決定を再検討するのかを決めるところまできている。村長選があつたため会議が止まってしまったが、今までのやってきたことを無視して新しいことを始めようという雰囲気は心外。これまでの審議の続きをきちんとし、結論を出したうえで、やっぱりいらないとなればそのとき新たな審議をすればいい。

委員）平成30年度の在り方委員会では、よりよい教育をするため統合してこうと決めて、統合検討委員会では学校の老朽化、小中一貫教育の大切さなどから新しい校舎を建てようとなった。これまでの歩みを無駄にしたくないという気持ちがある。子育て世代が入ってきて、子どもたちが増えるのは良いこと。新しい学校、よりよい学校を作ることが、移住者が増えることにつながると思う。統合小中学校の建設について議論を進めていきたい。

委員）今は変わらなければならない時だと思う。今を生きる力をどう培っていくかが教育に問われている。そのような中で、小中一貫校を見通したこと、これからの学びにふさわしい校舎ができることは素晴らしいこと。教育が進むチャンスだと感じている。現在の校舎でこれからの教育が実現できるかと問われると難しい。候補地選定は、事務局で条件を整え業者有識者等に客観的な評価を依頼して、建設委員会に諮るのがよいのでは。

委員）バスの現地視察で、建設委員同士で情報共有できた。素晴らしい時間だった。そ

れぞれの地域の現状を理解すること、地域説明会の必要性はとても高いと感じた。人口を増やすことは、大きな政策を実施しないと難しいと思う。村が強い意見をもって進展していったほしい。

委員) この委員会を続けるのであれば統合の方向で議論することは理解している。場所を先に決めようとしたから問題になった。素晴らしい学校の中身を先に決めないと、どういう教育をさせたいか、ある程度中身が決まったあとに建設場所を決めるのでもよいのでは。

委員長) 貴重な意見をいただきありがとうございました。在り方委員会の答申は大切なもので尊重しなければならないが、建設委員会の進め方に問題があったということは同感。建設ありきではなく、どういった学校、どういった教育をするのかが一番大事。そこを勘違いしているのではと思う。もう一度しっかりと考えていただきたい。

村長が、委員長という組織はない。委員長の職は降ろさせていただく。それと、議長を副委員長としているという組織もおかしい。議会はあくまで議会。その辺のところを十分にご理解いただき、議会では別に、小中一貫校、義務教育学校についてしっかりと議論していただく。

これまでの10年間という長い議論はありがたいが、在り方委員会の意向をしっかりと踏まえたうえで、推進協議会で地元の地域説明会をきちんと開き、地元の方々が納得したなかで進めていただきたい。

それから、スクールバスについては、前向きになるべく早く、進めていきたい。

委員) 在り方委と建設委でメンバーが大きく変わっている。村長と議会は二代表制で、互いの立場が一緒になってしまっている。建設委員会が最終的な決定機関となっており、議論をする余地がなかったのではないかと。今回、村長は在り方検討委員会の答申は尊重しつつ、推進協議会という形で諮問機関を作られるという理解でよろしいか。

委員長) 建設委員会を在り方委員会のところまで戻したとき、どうやって進めるのかという話になるが、教育のことは教育長が責任をもって、推進協議会で進めていただく。そして開校準備室に室長を置いて、そこでしっかりと進めていく形が一番理想的だと考えている。

委員) 確認になるが、この建設委員会では、いろいろな村民の意見やそれぞれの立場から出来る限りの比較検討・議論を行ったうえで、一応“この場所を”として選定した。今後どのような手順になるかは分からないが、村長に報告し、議会を経て、決定になるということでしょうか。

委員長) 建設委員会はそもそも必要ないと思っている。推進協議会でよい。建設と名がついているから、場所決めになってしまう。そのため、建設委員会というものは白紙にする。名称が変わり、当然議会も入らない。

委員) 今日集まって、突然「建設委員会は白紙、次は推進協議会」とのことだが、これは村長の考えということか。

委員長) はい。私も地区説明会は全部出席させていただいた。

委員) 説明会もそうだが、これまでの会議資料を全て把握されて、建設委員会は無用ということか。

委員長) はい。

委員) 推進協議会を作るということだが、それは“いつ”、“どのように”“作るお考えか。

委員長) それは全て教育委員会にお任せする。教育委員会が主体となってやること。

委員) 村長は学校の統合問題についてどのようにお考えか。

委員長) 最終決定、最終的な責任は取らなければならないが、それまでの段階は全て教育委員会にお任せする。

委員) 全て教育委員会にお任せしますとのことだが、これまでの約10年間の議論を白紙に戻すのか。

委員長) それはなんとも言えない。

委員) どこから始めるか、戻るかについても含めて、全て教育委員会で、ということか。

委員長) はい。

委員) 仮に建設委員会を解散したとして、在り方委員会では村長から諮問を受けて、小学校3校と中学校を統合すると答申をしている。その時点まで戻るのか。建設委員会を解散して別の組織を作るにしても、その推進協議会は統合問題を含めて検討するということになるのか。

委員長) 在り方委員会では、小中一貫校、義務教育学校にしていきたいという答申が出ているわけだから、そこまでの段階になる。

委員) では、小学校3校と中学校を統合するという時点からのスタートと理解してよろしいか。そうではなくて、それも含めて新たな推進協議会で検討しなおすのか。

委員長) はい。あくまで答申ですから、統合を実現する・しないは今後、推進協議会で十分に議論いただければ。

委員) 答申があって、村長が建設委員会を設置しようということになり、議会も承認してきたこれまでの流れはどうなるのか。

委員長) 申し訳ないが、村長が変わったので。

委員) これまで10数年かけてやってきたことを、村長が変わったからと言って、まるきり変えるということは、行政に対する不信感が多くなると思う。そうは思わないか。

委員長) その様には思わない。

委員) 村長からお願いされて、議論し答申をして統合小中学校の建設に向けて、委員会を立ち上げた。もし建設委員会を解散するならば、その時点(答申後)だと思うが、あくまでも統合も含めて改めて検討しなおすということか。

委員長) 統合については、答申が出ている。以前に承認されていることなので、そこまで戻りますということ。

委員) それでは、昭和村の学校を1つにするという時点からでよいのか。

委員長) そうです。

委員) 今後、推進協議会で審議された内容は村長の意見は反映されないのか。

委員長) そういうことになる。教育委員会で議論していただく。

委員) 村長が変わったから、まるきり変わるということに、いささか疑問を感じる。

委員長) それは考え方の相違であるから、よろしいかと思う。ただ、一番大事なことは、教育は50年100年の大局的なことで重要なことであり、教育のことは教育のプロに考えていただくということがセオリー。そのため、私が委員長でやること自体がおかしいということ。

委員) それは理解できるところはある。

委員) 在り方検討委員会の答申を尊重するということでよろしいか。それを踏まえて統合の程度も含めて推進協議会で議論を進めるのか。

委員長) その通り。

委員) 推進協議会はあくまで村長の諮問的な機関ということなので、村長は入らないのか。

委員長) 諮問機関ではなくて、あくまで教育委員会の設置する委員会となる。

委員) では、推進協議会は諮問的な機関ではないということか。

委員長) 諮問機関ではない。

委員) そこには議会議員も入らないのか。

委員長) 議会も入らない。

委員) 推進協議会の決定に対して、議会もチェックができる。

委員) 感想になってしまいが、今の村長の発言は「教育委員会に丸投げするから勝手にやれ」という風を感じてしまう。確かに教育に関することは教育長を中心として教育委員会で実務・現場等細部を考えていかなければならない。しかし、児童生徒数の減少が目に見えている現実を村長は把握して憂慮すべきではないか。村長から教育委員会に諮問するような形であれば、積極的に議論することができるが、今の話だと「私は関係ないから元に戻してやり直してくれ」というように受け止めてしまう。どのようにお考えか。

委員長) 言い方が強くなってしまい申し訳なかった。一番大切なのは子どもたち。子ども

たちのことをどれだけ真剣に考えられるかだと思う。それから各地区の保護者の方としっかりと相談をして進めないとうまくいかない。そういうことができるのが教育委員会であると思う。村長があれこれ指図するべきではない。今回の候補地選定については保護者の方も相当デリケートになっているので、慎重に丁寧に進めていただけたらという思いで、発言させていただいた。

委員) 平成30年の在り方委員会では未来を見据えた小中一貫教育の議論を、その後の統合検討委員会で小中学校を一つにした一貫校を作るという議論を、教育長を中心に行ってきた。それぞれの結論・答申を受けて、村長が建設委員会を設置した経緯がある。推進協議会では、これまでの議論を踏まえつつ、子どもたちが夢を持てる議論を進めたい。

委員長) これまで多くの議論積み重ねてこられたと思うが、建設の部分ではなく、もう少しソフトの部分を詰めていただきたかったと思う。

委員) これまでは様々な不満を解消するための学校統合の話し合いであったと思うが、スケジュールや目標がなくなる。まずは現状ある不満の声、目の前にある問題を解消して、そのうえで統合の議論を進めてほしい。

委員長) 昭和中の統合の際も、相当議論された。水害等の問題もあった。学校の統合問題は長い時間がかかる。それなりの覚悟がなければできない。地区の懇談会をしっかりと、地区の声をしっかりと聴いたうえで、推進協議会を開くという形が一番良いと思う。そうしないとまた同じ問題が起きてしまう。

委員) 推進協議会という名称を使われているが、名称は“何”推進協議会になるのか。

委員長) 統合までは答申で決まっているので、「昭和村の統合小中学校推進協議会」でよろしいのでは。

委員) 先ほどの委員さんがおっしゃったが、これからの議論にある程度のスケジュールがあった方が、目標が立てやすい。4年間の任期のうちにある程度の結論を出すので、村長が現職の間に決めてほしい。また違うとなったらこの問題はどうになってしまうのかという思いがあるので約束してほしい。

委員長) 議会の判断もあるので、私一人だけの判断というわけにはいかない。

委員) 他自治体では、首長のトップダウンで一貫校を実現している、そういった事例もあるわけだから出来ると思う。首長という責任と自負を持った方であるから、我々が結論を出したら、決めていただきたい。

委員長) 答えを出していただければ判断する。

委員長) ほかにございませんか。では、これでこの議題はよろしいか。

委員) 発言してもよろしいか。ではこれでというが、建設委員会は解散するということか。そこをはっきりして欲し。なんとなくやむやになってしまう。

委員長) それは、先ほどはっきり申し上げたとおりです。

委員) 解散ということではよろしいか。村長がそのように発言したので解散ということで良いか。

委員長) 私が委員長を辞任するので解散となると思うが、いかがか。

委員) 「委員長を辞任します」ではなく、「解散します」と宣言していただいた方が納得する。

委員長) 先ほども申し上げたとおり、白紙に戻す。建設委員会は解散させていただきますということ。

■採決

村長判断による建設委員会のこれまでの判断の白紙撤回と解散及び新たな協議会の設置について

事務局) 本委員会は設置要綱によって委員として村長がおり、互選で委員長となりました。今回、委員長である村長が建設委員会を解散するという判断を下しました。そのため、委員の皆様から承認をいただければ、建設委員会の要綱を廃止し、委員会を

閉じさせていただきます。また、村長から推進協議会という話があったりしましたが、そこらは教育委員会が主体ということで、また皆様にお集まりいただくことになると思います。解散の承認というかたちで今日の会議を終了させていただいてよろしいでしょうか。

委員) 異議なし

議題(2) その他

委員) 建設委員会を閉じて推進協議会ということだが、1年後2年後とか期間が空いてはまずい。建設委員会のスケジュールは説明をしてきたと思うが、中学校や小学校の老朽化の改修が必要な時期が迫っているのではないか。

事務局) 中学校は建設から30年を経過しており、大規模改修が必要な時期になっています。東小、南小も大規模改修が必要な時期が近づいています。

委員) 推進協議会という組織では、議長をはじめ議員の皆さんは組織には入らない。学校の校長先生はオブザーバーとして参加していただき、教育委員さんや各小中学校・保育園の代表には残っていただき、名前は変わるが同じメンバーで9月または10月に議論を再開したい。今まで積み重ねてきた議論をもとに、新しい協議会でも継続して議論をしていきたい。

委員) それは教育委員会にお任せしたい。もう一回集まってくれと言われれば集まり、新しいメンバーで行うのでもよい。

委員) 委員の選任は決して強制するものではないが、新しい会議の開始が1年後2年後では遅すぎる。

教育長) なるべく早期に会議を開催したい。ただ、これまでの議論の趣旨からすると、中身からという気持ちが強いと感じる。すでに「自立と共生と創造の学校」という全体構想は持っており、それを実現するためには9年間が必要だという計画も立てていたが、建設委員会で各部会の議論が深まっていく中で発言することと考えていた。

新たな協議会では、教育の内容と一貫教育を実現できる新しい学校について議論を深め、その教育を行うにふさわしい場所の議論に入っていくべきと思う。

そのため、推進協議会ではまず、子どもたちを第一に15年30年先を見据えてどういう学校が必要になるか議論が必要。15年後くらいには、統合しても小中それぞれ1学年1クラスになってしまう。

これからは時代がどんなに変わっても対応できる子どもを育てる問題解決学習、問題解決力の育成という教育に取り組む必要があり、一貫して9年かけても難しい。まして小中バラバラではできないレベルであるため、一貫教育が必要だと謳っているところ。まずは内容の議論を深め、候補地についての説得力ある資料作りを皆さんとしていきたいと考えている。これまでの資料は十分に利用できる。いま建設委員会で各地区から集まっていたいただいている皆さんに推進協議会でも再び協力を得たいので、お声掛けさせていただきたい。

事務局) それでは、次回は推進協議会という形で皆様にご連絡を差し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上で第10回建設委員会を終了させていただきます。